

会報

No. 44

平成10('98)年1月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市下京区西七条八幡町31
京都府立図書館仮施設内
TEL (075)321-0200

「生き方を決めた言葉」との出会い

京都教育大学名誉教授
京都文教短期大学教授

金井 秀子



第二次世界大戦直後の混乱と貧困の時代にあつて、学校の図書室は私にとつて、知識の宝庫でした。ローン、ハイネ、ヘッセなどを貪るように読みあさりました。

昭和二十四年、新制高校の二年の春、いつものとおり薄暗く古紙の匂いのする図書室で、私と一冊の本との出会いがありました。―「禅の研究」―確か禅問答の本だったように記憶しています。その頃は自分の将来を模索していた時でした。

その本の巻頭に「父母未生前汝面目如何」という言葉がありました。今まで読んだ本とは全く趣きが異なつたこの書物のこの言葉に私は強烈な力で引きつけられたのです。「父母がまだ生まれていない以前のお前とは一体何なのか」と。祖父母が生まれていない時の私は何であるのか、

人類が存在しなかった時の私は……。私が死んでしまった後の私とは……。地球が消滅した時の私とは……。今ここに存在するお前である「私」とは何か。長い間、自問自答しました。十七歳の単純な思考過程であつたと思います。人間の五十年の命など宇宙の時間からみればほんの一瞬にすぎない。私は「今」を生きている。だけどその命もあと三十年あまりしかない。元素にもどるまでの私に与えられた時間を如何に生きるか。その時から私は「自分が生きること」の意義を考え始めたのです。

「患者に自分の血を輸血して手術した」誠実で暖かい外科医の父の姿から医師になろうと決心したので。その後、研究、診療と三人の子育てとの両立に悩んだ時、女性として人生の壁にぶつかったことは幾度もありました。その度に「父母未生前汝面目如何」は私に生きるエネルギーを与えてくれたのでした。

昭和五十九年、私が文部省在外研究員としてロンドン大学の精神医学研究所へ留学していた時のことです。教授宅へ食事に招待され、家族のこと、趣味のこと、いろいろな話がはずみました。話題が突然変わって、教授が真顔で「あなたのフィロソフィーは何ですか」と質問されたのです。

私は地球を半周して日本を思いだそうとしました。「父母未生前汝面目如何」。英語で考えたことがなかったので一瞬つまりましたが、「Who am I, when my parents were not born yet?」と答え、教授夫妻に私の高校時代に考えた人生観・宇宙観を話して、今日の私があることを説明をしたのでした。「あなたのフィロソフィーは大変すばらしい」と教授にお褒めの言葉をいただき、それを日本文字で書いて、あなたのサインが欲しいと言われたのです。家族を愛し、芸術に親しみ、花や植物を愛で、育て、しかも自分自身のフィロソフィー(人生哲学)をもつて研究してこそ、レディーであり、ジェントルマンであると話されたことが強く印象に残っています。

その後、ロンドン市内のギルドホールで開催された、研究所主催のレセプションと晩餐会に招かれ、メインテーブルにファスト・レディーとしてエスコートしていただく光栄に浴することとなりました。

私が女性問題に取り組むきっかけになったのも、すべての女性が貴重な人生を生き活きと輝いて生きて欲しいからです。

ウイングス京都

(京都市女性総合センター)館長

京 函 連 協 ・ 実 務 研 修 会

一泊研修 テーマ「『児童サービス』について」

恒例の一泊研修が、九月十一、十二日に国民年金健康センター、丹後おおみやを会場として開催されました。

「これからの児童サービスを考える」

滋賀県永源寺町図書館準備室長

巽 照子氏 講演要旨

今日のようにめまぐるしく変化する社会情勢の中、子どもを取り巻く環境は多種多様であり、また日々変化している。このような状況の中でこれからの児童サービスは、子どもたちの一人一人に対して、本との出会いのきっかけをつくり、子どもたち自身が読書を通して自分探しができるように援助していくことが必要と

なってくる。

そのためには、私達に「子どもを理解すること」「本を知ること」「子どもと本を結びつけること」が要求される。

まず、「子どもを理解する」ためには、子どもをとりにまく地域社会をよく知ることが必要である。また、資料の選択と蔵書構成の問題にも及ぶが「本を知る」ということは、子どもがすぐ喜ぶ本を与えておくだけでなく、言葉を大切に人間

として生きる力となる古典的な本をも知らなければいけないということである。その上で「子どもと本を結びつける」援助をしなければならぬ。

しかしながら、最終的に子どもと本・子どもと図書館を結びつけるのは、日々の業務、つまりフロアワークであり、積み重ねにより質の高いフロアワークをめざすことが大切である。本の紹介やレファレンス・読み聞かせを通じて子どもたちは読書の楽しさを知り、私達を信頼してくれるようになるのである。

今後は学校やその他の施設との連携も重要になってくる。小・中学校の授業の一コマとして図書館見学を積極的に取り入れてもらおう。あるいは、保育所や学校へ読み聞かせやブックトークなどに出向くといった連携協力がネットワークをつくり、ひいては子どもと図書館との信頼関係を築いていくことにもなる。

このように考えると、我々に課せられた責務は大きい。『すべての子どもに読書の喜びを！』を目指し、日々研鑽に努めたいものである。

一泊研修感想

宮津市立図書館

吉田 麻由美

一泊研修が、北部であり参加しました。今回のテーマは「『児童サービス』について」で、巽照子氏の「これからの児童サービスを考える」という講演があり、児童図書館員の役割、読書環境の整備等これまで体験されてきた事を中心に話され、参考資料もたくさん紹介されました。

その中で、貸出しが減り、アンケートを取った結果、職員が多忙という回答があり、午後三十分間フロアにフリーな職員を置いた。すると貸出しが増えたという話が印象に残りました。

親身になって声をかけたり、相談にのることは、親近感を抱かせ図書館への信頼を深めることにつながります。子ども達に目を配り、要求に応じられるフロアワークが大切だと改めて思いました。

交流会ですが、席次がトトロの折り紙で作ってあり、府立図書館の西垣さんが作られた「へびイチノスケ君」が抽選で当たったり、それを使って即興で何人か演じたり、講師の先生のお話「ヤギとライオン」がロールクの灯の中で聴けたりして、今まで参加した中で一番楽しい交流会でした。

一日研修 テーマ「伝承おもちやと科学あそび」

十一月二十一日に、福知山市立図書館を会場として、小野操子氏（長岡科学とあそびの会代表他）を講師に迎え開催されました。

舞鶴市立東図書館

岡山 理恵

実務研修の名にふさわしく、実際に工作に取り組んでの講義となりました。材料は牛乳パックや新聞紙などのリサイクルが中心で、子どもにとって失敗を気にせず思いきって作ることが出来ます。作り方も簡単で十分程度で完成するものばかりです。しかしそれでいて、科学的根拠に基づき、アイディアしだいでバリエーションも広がる工作です。

講師の方のテンポのよいお話は、二時間半をあっという間に思わせ、仕上げた作品は、不思議なおもしろさがあり、内容の濃さに充実感を覚えました。ブックトークや行事の導入にも最適で、内心「使える！」と思いました。

しかし、工作教室等を実際に行うとなると、道具の配置や説明の方法にきめ細やかな準備が必要となります。おはなしに関連させてさらに楽しんでいただくには、やはりここにも日頃の蓄積が要求されることを感じました。

まっ、とにかくは、ブックトーク等で実際やってみたいと思います。研修の成果となればよいのですが。

新館紹介

宇治市西宇治図書館

平成九年六月三日、宇治市で三館目の図書館（分館として東宇治図書館について二館目）となります。西宇治図書館が、市内西部の小倉の地にオープンしました。場所は、近鉄小倉駅から徒歩約十分、西小倉地域福祉センターとの複合施設にあり、その三階部分です。



面積は、約五九〇㎡、蔵書規模は、開架書架約四万冊、書庫五千冊ですが、開館時は三万冊でスタートしました。

この地域は、市内で最も人口が集中しており、従来から移動図書館の利用率も高く、長いあいだ、分館の建設が待ち望まれていました。

六月のオープン時から、予想通りの盛況ぶりです。以前からの図書館利用者や、図書館は初めてという市民も次々と来館、身近に図書館ができた喜びをカウンターで伝えてくれる人もたくさんいました。

そのまま夏休みの繁忙期に突入し、子供達の熱気であふれる館内がよくよく落ち着いたのは九月でした。

平常期を迎え、利用状況を見ると、平日の高齢者の来館がめだちます。どうやら、階下の福祉サービスと一緒に利用されている様子です。

この図書館は、宇治市で初めて福祉施設との併設という面で注目されており、館としても椅子を汎山配置する等、ゆったりくつろいで利用できる様に工夫してきたところで、これらは高齢者だけでなく若い人達にも良く利用されており、貸出利用に加え、館内でゆつくり閲覧するこんなスタイルが、生涯学習の時代、また高齢化社会の進行のなかで、さらに増えていく様に思います。

開館後半年を過ぎましたが、今後も、市民の暮らしの一部になる図書館を目標に励みたいと考えています。

京都市図書館情報網

『京・ライブラリーネット』の整備について

京都市では、現在、平成十三年度までの五ヶ年計画で、図書館全十七館のコンピュータによるネットワーク化を図っています。

近年、市民の生涯学習活動の高まりに伴い、ニーズも多様化、高度化してきている状況にあり、もっとも身近な生涯学習の拠点である京都市図書館に対する期待も大きいものとなっております。こうしたことに対応するためです。

全図書館がネットワーク化されると、他館の図書についても貸出し、返却等処理が可能になります。また、利用者は、最寄りの図書館において、端末機から全館の図書を直接検索ができるようになります。他館の図書の貸出し、返却等もできるようになります。

十二月一日からは中央・伏見中央・醍醐中央図書館の三館間で稼働したのを始め、今後地域館三館も含めて、今年度内に合計六館を予定しています。

今後、図書館サービスの一層の向上を図っていききたいと考えています。

公立図書館振興

について

〈要望書を提出〉

京図連協から毎年行っている「公立図書館振興について（要望）」を、本年度も各市町村及び府あてに提出しました。

府及び府教育委員会には、平成九年十一月十七日付けで、府立図書館長を通じて提出。要望書で出された内容は次のとおりです。

○ 要望書（知事及び府教育長あて）

○ 新府立図書館は、二十一世紀の京都府全域の図書資料・情報サービスの中枢としてふさわしいものとし、府内図書館ネットワーク及び図書館相互協力の中核となるなど、市町立図書館等への支援を一層強めてください。

○ 京都府内の図書館未設置町村の解消ならびに公立図書館の整備・充実のための具体的な援助施策を進めてください。

○ 要望書（府教育長あて）

○ 京都府内市町村の図書館職員の資質向上を図るための研修を実施してください。



図 書 館 大 会

主催 京都府図書館等連絡協議会、(社)日本図書館協会、京都大学附属図書館
後援 京都府教育委員会、京都市教育委員会

概 要

第六回京都図書館大会が平成九年十二月五日、京都大学附属図書館を会場として開催されました。

印刷メディアだけでなく、電子メディアでの情報提供が求められているなど、図書館利用の形態や、利用者の要望も多様化してきています。そこで、単独ではできないサービスを、どのようにすればよいのかを探るべく、「館種をこえた図書館間連携をめざして」をテーマに講演・報告・討議がくりひろげられました。

主催者として日本図書館協会酒川事務局長が、「電子的な資料が作られ、図書館での機械化が進む、そのこと自体は悪いことではないが、情報の弱者を作り出してはいけない。」また、京都府図書館等連絡協議会高向会長は、「平成不況と言われる今日、単独で図書館整備ができない状況にあり、図書館間の館種をこえたネットワークが必要である。」続いて京都大学附属図書館万波館長より、「大学の図書館も電子化の波と、学生の変化という二つの面で、変革をせまられている。」と挨拶をされました。

実行委員で同志社大学の金城教授より、「それぞれの発表から、図書館連携の必要性を感じてもらったと思う。来年、このように変わったという話が聞かれるよう、現場で精進してほしい。」とまとめられ、閉会となりました。

今大会は、十一時からの開催という一日の日程で、講演が二、報告が三ありました。それぞれについて、簡単な概要と感想を参加された方にお願ひしました。

講演1 「国立国会図書館 関西館について」

国立国会図書館主任参事
内海 啓也氏

宇治市中央図書館

志賀 清泰

今回の講演は、国立国会図書館関西館（以後関西館と省略）についての概要と、今後のスケジュールについてであった。

関西館は、東京の国会図書館本館が平成十三年で書架が満杯になることが予測されており、二十一世紀中は大丈夫な書庫の収蔵能力を確保するとともに、情報通信回線を介した図書館サービスのできる電子図書館機能、アジア各国の文献情報を集め、インターネット等で発信するアジア文献情報センター機能、国内外の図書館と協力あるいは支援する図書館協力の拠点機能、情報処理技術や資

料保存技術等の研究・開発及び研修の拠点機能をもつ図書館として、平成十四年の開館を目指し現在計画中のことでした。

図書館協力の拠点としては、総合目録ネットワークや、図書館で不要となった資料を関西館へ送り、保存、利用する共同保存プロジェクトを実施し、全国的な図書館情報ネットワークのセンターとしての機能を果たすとのことであり、大変期待が持てる内容でありました。

講演を聞いて感じたことは、これからの図書館は、いままでの図書資料などに加えて、電子メディアを初めとする様々な情報ツールの提供も視野に入れたサービスを考えていかねばならないと思いました。

関西館開館については、かねてより非常に期待し、待ち望んでいたが、今回の講演を聞き、なお一層の期待を抱き、平成十四年の開館が待ち遠しくなる講演でありました。

講演2 「私の図書館研究 と資料収集」

京都大学教育学部助教授
川崎 良孝氏

京都府立総合資料館

小林 育子

「私の図書館研究と資料収集」と題して、京都大学教育学部助教授川崎良孝氏が、利用者、研究者の立場

から講演されました。まず最初に利用者として、図書館に求めることは、「自由に使い、求める情報、資料がポン（三週間位）とでてくる」ことにつぎると言われました。そして、二つの論文作成にあたって、必要な資料（図書、雑誌、新聞、日記、調査報告）の入手、電子メールやインターネットを使っての情報収集過程での経験や、発見を楽しく話されました。

図書館についての要望としては、研究者の関心の変化が大きく、資料についても従来とは違って多様なものが求められている、館種間の壁もまだまだ厚いが、館種を越えて職員集団として対応できるよう考えて欲しいと意見を述べられました。また、それぞれの館の現段階の問題について、大学図書館は、学生にあったサービス、教育的側面の重視、公共図書館は、社会の動きに対応する活動を、基盤整備と同時進行の中で大変だが、進めねばならない。学校図書館は、均質でレベルの高いサービスの実現が求められていると指摘されました。研究者の方の資料の求め方、探し方について話を聞くのは初めてで、全体として興味深く聞きました。同時に、こんな資料を図書館に求めているのだからかと自己規制しがちだという話、調査過程で出版を知った『十九世紀の世界主要都市の地図』（五十万円）を在住地の市立図書館に相談し、県立図書館にリクエストとして購入してもらってちょっと感激した話等。

都 京 回 6 第

現在の京都府の貧困な図書費の現状、その中でなんとか資料要求に答える為に働きたいと願う者としては、考えさせられる点も多くあった講演でした。

◎報告1「京都大学附属図書館の電子図書館サービス」

京都大学附属図書館

電子情報掛長

小川 晋 平氏

宇治田原町立図書館

広垣 暁子

平成九年に電子情報掛が発足。

平成十年一月の始動に向けて、現在、着々と準備がすすめられている。

電子図書館とは、資料の電子化を進めることによって、「いつでも、誰でも、どこからでも」可能なサービスを提供する機能の集積体であり、『机の上に京都大学（＝京都大学は知の宝庫）』というキャッチフレーズが、電子図書館サービスの全てを網羅している。学内関連組織との連携の上で図書館業務を改善合理化し、まず、多数の蔵書の中から貴重書（重要文化財、富士川文庫）と、京都大学百年史及び写真集の電子化から作業が始まっている。

三十年前、京都大学教養学部図書館に勤務していた頃は、何もかも手作業。一冊一冊目録カードを手書きし、それをコピー機で複写・増刷。著者目録、書名目録、件名目録に分

けてカードケースに収納していた。一冊の本が図書館に受入れされてから利用者の手元に届くまで数ヵ月を要していたと思う。

将来的に電子化された図書館が増えていくと、情報のキャッチもかなり速くなるだろうし、「本」そのものの形態も変わり、印刷・出版の世界も様変わりすることだろう。

ネットワークサービスを利用すれば、図書館へ出かけていなくても、家に居ながらにして図書館の利用ができることも夢ではない。

但し、私の頭の中のコンピュータでは、まだまだ「夢のまた夢」状態だけれど……。



◎報告2「大阪府立中央図書館の相互協力」

大阪府立中央図書館ネットワーク係長

三宅 多賀志氏

京田辺市立中央図書館

大槻 政美

まず、大阪府立中央図書館全体の業務の概要について説明の後、協力

事業について報告されました。一九九六年五月に新館が開館し、OIN ET24を経由して府民に所蔵情報や催し物情報等を提供し、府内の図書館に対しては電子掲示板や協力貸出しの申し込みができるようになった。

昨年度の協力貸出しは、二万六千件を越え、申し込み方法もパソコン通信によるものが半数近くあるとのことでした。また、これを支える物流の手段として、週一回協力車を巡回させています。

図書館からのFAXでのレファレンスの申し込みは月平均一〇〇件にもなるそうです。

子どもたちが集う所、それが図書館であり、子どもへのサービスに努めること、また、府民がまず利用する図書館は、市町村の図書館であり、そのため大阪府内の公共図書館へのサービスを第一に考え進めていきたいとの話が印象的でした。

今後の課題として、市町村間の相互貸借資料の協力車での搬送をあげられました。

膨大な資料に裏付けされた情報ネットワーク、そしてそれを支える物流ネットワーク等、新しい府県立図書館の状況報告に接し、府県立図書館の役割について再確認した思いでした。

今回の図書館大会のむすびとして、同志社大学の太城先生が京都府立図書館も大阪府立中央図書館を見てサービスを進めて欲しいとの話がありました。市町村の図書館の立場としては、京都府立図書館は、市町村間の相互貸借資料の搬送等、進んでいる所もありますが、全体には先進的

な大阪府立図書館のさらに二歩、三歩先を見据えたサービス計画を持ち、新館の計画を進めてほしいという気持ちで会場を後にしました。

◎報告3「嵯峨野高校こすもす科『京都文化論』について」

京都府立嵯峨野高等学校教諭

古谷 一 樹氏

京都市向島図書館

平場 澤

こすもす科においては、三十単位を選択制にして一年では「京都文化論」、二年で「情報に関する科目」、三年で「課題研究」を必須科目としているということでした。「京都文化論」の時間では、自分で自由にテーマを選んで、自分で調べて新しいビジョンを発表してもらっているとのこと。ただ勉強し覚えるだけの教育から何かを作り出して行く教育へ変わっていつているのだなあと思いました。そして自分で調べる課程で、学校の資料ばかりでなく、資料館・図書館の資料も積極的に使って勉強しているそうです。図書館員として大変嬉しく思いました。いくら価値があると自負しても、つかって貰ってこそその価値だともいえますし、このような未来に貢献できそうな事は、夢がもってイイですね。このようにいろんな所で、図書館が役に立ち、親しまれ、そして必要とされることで、もっともっと成長していけるし、その結果図書館ももっと楽しい所になるのではと思います。そして私たち図書館員もできるだけ研鑽し、お役に立てるよう努力して行きたいです。

○ 研修研究委員会

研修研究委員会主催の今年度の研修は、予定していた三回のうち二会場がすみしました。一泊研修（北部会場）は、九月十一日から十二日にかけて三十名が参加しました。当日の参加者からのアンケートをひろってみますと、

- ブックトークの実演がよかった。
- 図書を紹介も交え、わかりやすかった。
- 子供の人柄を考えながらの実践は難しい。
- 小さな図書館ではこのような研修機関がないので、もっと時間があってもよかったと思う。
- 和やかな雰囲気が進められ「もっと聞きたい」「もっと質問したい！」という気持ちでいっぱいでした。
- 特急を使わずに行ける場所です等々……。



研修日程 ○ 一日研修（南部会場）

日時 平成十年二月十九日（木）
午後一時三十分～四時
場所 宇治市東宇治図書館
テーマ 「障害者サービスを考える―まず手近なところからはじめよう―」
講師 藤井千年氏
（神戸大学図書館学講師）

参加申込期日 平成十年二月五日（木）
精華町立図書館 辻氏宛
多数の参加をお願いします。

○ 相互協力委員会

十一月六日に府立図書館（仮施設）で第一回相互協力委員会を開きました。その中から今年度予定の事業を中心に、主なものを紹介いたします。府立図書館サービス休止中の相互

協力実態調査を行うことになりました。今年九月、府立は仮施設移転のため、連絡協力車運行や相互貸借を含めて一切のサービスを休止し、十月にも車が運行できませんでしたが、この期間、市町村図書館等ではどのような業務が行われたのか、実態を把握し、今後の相互協力活動の参考にしたいと思えます。各館・室の協力をお願いします。

相互協力実務担当者会議について

第3回理事会報告

10月23日（木）、第3回理事会が仮庁舎へ引越後の京都府立図書館で開催されました。

まず、総会以降の取組について事務局が報告。そのあと研修研究・広報・相互協力の各委員長から、今年度の取組状況について報告がありました。また事務局から、第6回京都図書館大会について開催要項に基づき報告、承認されました。

協議では、「公立図書館振興に関する要望活動」については、①市町村に対しては市町村長あてのみとする②図書館設置市町村には図書館を通じて提出③未設置町村には読書施設を通じて提出④京都府には府立図書館長を通じて提出。

また、京図連協の後援名義申請（子どもと本の出会いの会）について協議がなされ、今回は見送りとする事になりました。

は、各委員の意見を集約して、事務局で案をまとめることになりました。WANTEDの回答をFAQで行うことにしたらどうかという提案については、FAQのない館がある、回答が二度手間になる、資料の取り置き期間・回答期限の問題などの意見が出され、FAQで回答するかどうかは各館に任せることになりました。

○ 広報委員会

本年度第二回広報委員会を十一月十三日に、今話題の京都市醍醐中央図書館で開催し、会報四四号を六ページだてとすること、及びその編集方針と記事分担を決定しました。

会報では、ウィングス京都（京都市女性総合センター）館長、金井秀子氏に一面を飾っていただく事にな

編集子

編集会議で市町村の人に会うと、元気になります。今回の編集会議は最近オープンした京都市醍醐中央図書館で行われました。AVブースは平日だというのに2/3埋まっていました。AV資料は人気がある反面、管理運営は試行錯誤で大変な様子です。